小・中学校作文コンクール県審査 最優秀

「有田川に魅せられて」

県立向陽中1年　串上 舞さん

ミーンミンミン。夏の真っ盛り、ミンミンゼミが一際大きく鳴いている有田川のそばで鮎の引っ掛け釣りを家族で楽しみました。最初に「鮎釣りに行こう」と言い出したのは母でした。私は余り乗り気ではなかったのですが、折角の夏休みなので、普段出来ないことをしようと思い、家族で行くことにしました。

当日朝から、「父よりも沢山釣るぞ」という目標を密かに立てて出発しました。釣り堀に着き、有言実行とばかりに釣り針を投げ込んだのですが、最初に掛かったのは父、その次も父。なんと私は全く釣れません。えさが無い分、針だけで引っ掛けるのが難しいのです。全く釣れていない私に気を使ってくれたのか、管理人のおじさんが、竿を別の物に交換してくれました。その甲斐あってか、その後私は連続で八匹程釣れ、父母・私の分を合わせて鮎は合計十五匹となりました。

目標も達成し、そろそろ帰ろうかなという時に、おじさんがはらわたを取ってくれるというので鮎を持って行くと、ここでは鮎だけでなく、秋は甘子釣りも出来るということを教えてくれました。鮎は秋は釣れないのかと尋ねると、「鮎は一年魚やさかいねえ」と返ってきました。一年魚というのは、生後一年以内に産卵して、産卵を終えると寿命が尽きる魚のことです。鮎は秋に産卵後、力尽きて死にます。おじさんとそんな話をする中で、ずっと命をつないで来た鮎に、今日は釣りをさせてもらえて良かったなぁという感謝の気持ちが湧いて来るのでした。人間とは違い、鮎は年を越せません。短い一生でも精一杯、たくましく生きる鮎に尊敬の念を抱きました。

家に帰って図鑑で調べてみると、他にもシラウオ・ワカサギ・ハゼ・イカなども一年魚であることが分かりました。特にイカは、誰もが一度は口にしたことがある様な身近な生き物です。魚は、そのほとんどが短い一生を送ります。昆虫などもそうです。私は今まで食卓に魚を出してくれていても、料理をしてくれた人のことを考えていて、魚への感謝の気持ちが足りなかったのではないかと思います。だから私は、普段食べている魚などの生き物にもっと感謝をして、頂かなければいけないなと反省しました。

もう一つ良いことがありました。おじさんがはらわたを取り始めた時に、流し台のふちに可愛い蛙が乗っていたのです。手の平に乗せると、澄ました顔でちょこんと座っています。私は蛙が大好きなので、その姿が何とも愛おしく、おじさんに「この蛙は河鹿蛙かなぁ」と尋ねると、「土蛙やろうなぁ。河鹿蛙はもっと平たいよ。ここら辺にもいてるよ」と教えてくれました。河鹿蛙はきれいな所にしか住まないので、こんな水の美しい所ならあの独特の鳴き声を聞かせてくれるだろうなぁと、期待に胸が膨らみました。

釣りが済んでから、釣り堀の下を流れている有田川へ下りて足を浸けました。水量が多く、勢いの良い澄み切った川です。小魚やお玉杓子が私の足をつんつんくすぐりにきました。山から吹き下ろす涼しい風と、川のせせらぎの音に身を委ね、美味しい空気を吸っていると、毎日宿題に追われ、暑さに参ってしまいそうだった自分が解き放たれ、余計な力が抜け、自然に戻っていくのが感じられました。

来て良かった――。心からそう思えた時、クラスの皆の顔が目に浮かびました。先生や友達は今頃どうしているかな。後期からも元気に通いたいなぁ。忙しかった前期での出来事が思い出され、楽しかったこと、苦しかったことなどが次々とよみがえって来ました。

そして一番心に残ったのは、有田川の人々の思いやりです。昼食に頂いたざるそばは、食べる人のことを考えて、氷で冷たくそばを冷やしてくれていたのが心に残りました。釣った鮎をクーラーボックスに入れて持って帰る時も、氷を沢山持って来てくれました。街では皆スマートフォンを手にして、コミュニケーションもあまり取らずに、自分のことを中心に考え、急ぎ足で通り過ぎて行ってしまう忙しい世の中なのに、こんなに温かく人を迎えてくれるのは何故だろうと、不思議に思えました。

見渡せば、風になびく稲穂、初秋を思わせる赤とんぼ、川遊びをする子供達の笑い声、蜩のシャワー、鮎が時折川から跳ねる神秘が、人を優しく包んでくれるからではないかと、納得出来ました。

来年は是非ロッジに泊まり、温泉に浸かって有田川をくまなく探険し、河鹿蛙の鳴き声をたっぷりと堪能して、皆にも良い所を教えてあげたいなと思います。別れを惜しみつつ、私も有田川の人々の様に、皆の心をいやせる様な存在になりたいなと思いながら、帰途につきました。

文章 磨いていく

驚きしかなかったが両親が喜んでくれてうれしかった。自分の純粋な気持ちを表現できるよう、今後も文章を磨いていきたい。

【主催】読売新聞社
【後援】文部科学省ほか
【協賛】JR東日本、JR東海、JR西日本、日本テレビ放送網、日本書芸院、光村印刷
【協力】三菱鉛筆

一幅広い製品をすべて自社工場で作っている」と話す田中社長

（森本寿夫）

和歌山市況　18日

（キロ、円）

和歌山

◇魚類㊐

アジ	405	810
ササシマ	324	756
ルメイカ	729	1620
ブリメジロ	540	702
	1188	1296

湯浅

ダイコン本	25	75
カボチャ	20	130
ワケギ束	25	65
ホウレン草束	30	70
コマツ菜束	25	40

田辺㊐

ダキコンベ本	11	130
イヤンツ個	11	140
キャベスイス	22	130
レタス	32	108
ハクサイ	54	432
ナス	54	240

Event